

課題管理実施報告書

報告日：2010年4月30日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	アジア血液透析シンポジウム
実施日	2010年4月25日(日)
場所	宮崎県延岡市 延岡総合文化センター 大ホール
形式	一般公開・ <u>シンポジウム</u> ・セミナー・講演会・ワークショップ・その他() 展示物：有(機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他()) <u>無</u>
対象者	<u>一般</u> <u>学生</u> (中学・高校・ <u>大学</u>) その他()
来場者	人数：450名、(内訳 一般350名：医師・看護師・臨床工学技士・企業 学生100名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 <u>メディア取材</u> <u>フィリピン</u> <u>HP</u> 、メール発信 <u>その他</u> (チラシ配布)
実施者	○実施取り纏め者 九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科 教授 竹澤真吾
内容	○実施内容 次の招聘者から、各国の実情を15～20分で報告いただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ● 中国における血液透析 崔太根 (Cui Taigen)：首都医科大学附属北京朝陽医院 (Beijing Chaoyang Hospital, Capital Medical University) ● 韓国における血液透析 Sug Kyun Shin：Ilsan Hospital ● フィリピンにおける医療の現況 Josephine Reyes Valdez：De La Salle University Medical Center ● パキスタンにおける血液透析 Salman Shakoh：Shakoh's Hemodialysis Center ● マレーシアにおける医療の現況 Ghazali Ahmed Kutty：Department of Nephrology , Hospital Kuala Lumpur ● PD(腹膜透析)とHD(血液透析)の選択 山下明泰(Akihiro Yamashita)：湘南工科大学 ● 総合討論 発表は9：30～11：30まで行われ、総合討論を11：30～12：00まで行った。
効果、問題点、	○実施した効果

今後の展望と
課題

各国の透析実情が把握できた。今回我々日本側が驚いたことは、水道水の水処理が不十分で、かつ電源供給も不安定な状態での血液透析がなされていることである。透析者の予後は悪く、日本の患者平均値10～15年と比べると数年と短い。これはすでに学会報告にて明らかであった。今回は透析技術にポイントを絞っての発表をしていただいたため、従来学会報告では明らかにされなかった技術的問題点を数多く知ることとなった。水道水は飲水に適していない状態にもかかわらず、血液透析用水を作成しなければならない状態であり、停電が頻繁に発生する中での透析治療を余儀なくされているなど、予想を遙かに上回る劣悪な状況にて透析がなされていることが分かり、日本の参加者は驚愕の状態であった。これからは、単に医学的な問題点だけではなく、透析技術の問題点を明らかにし、いかにして血液透析をアジアに普及していくかを議論、問題点の洗い出しと解決に向けた共同研究が不可欠であるとの認識を出席者全員が持ったことは、大変意義あるシンポジウムであった。とくに、最後の総合討論で話題となった日本式の透析技術（透析液集中作成方式）が安価でメンテナンスしやすいことから、アジアでも採用すべく共同研究の申し出があったことは、予想を遙かに上回る成果であった。

○ 実施上の問題点

実施案作成から実施日までが3ヶ月と短く、各国との連絡、ビザ取得などに手間取った。また、タイからの招聘ではタイ国内の混乱から連絡自体がつかない状況であり、政治的な不安定要素も問題となった。中国からの招聘は現地の日本企業に手助けをしてもらい出国もスムーズになったが、主催者側のみでは困難を極めたと思われる。フィリピンはビザ取得など問題点が少なかったにもかかわらず、招聘者が自国の血液透析学会で多忙なときと重なり、最後まで発表内容の摺り合わせに苦労した。

○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題

今回発表いただいた招聘者との連絡は今後スムーズに取れるようになったが、今後は現地での血液透析の実態を把握し、日本側からどのような協力ができ、共同研究が可能なのかを知る必要がある。具体的には、透析に使用する水の濁り具合、菌の繁殖程度、水温の変化、供給電源のふらつき範囲と停電の頻度、透析室の湿度と温度、患者が透析を受けるまでの動線と透析の施行状況、透析終了後の機器の洗浄方法、廃棄物の処理方法を把握しなければならない。各国で行うべきことは数多くあり、今まで透析技術面でのサポート、共同研究が全くなされていなかったことが悔やまれる。今後このようなコミュニティ形成を行っていくことによって、アジア各国での血液透析普及が促進し、多くの慢性腎不全患者が救命できるようになる。